

# 平成28年度 事業報告

自 平成28年4月 1日

至 平成29年3月31日

## <概況>

本協会は1980年7月26日に創立され、昨年36周年を迎えた。創立以来、家族の絆を強めて家庭の再生を図る生き方を社会に提唱し続け、幅広い生涯学習に取り組んできた。家庭崩壊の危機が一段と深刻化している今日、本協会の理念と長年にわたる活動実績が国内外から、家庭教育を中心とする生涯学習団体として高く評価されている。

組織面では、新たに制定された公益法人法に基づいて、平成26年3月20日、内閣総理大臣から「公益社団法人」として認定され、平成26年4月1日に移行・設立した。

昨年6月に、創立40周年度「全国50スクール実現」計画を決定し、組織の再編成や新しい地域の開拓、研修・学習体制の見直し、地区事務局体制の強化などを、積極的に推進している。

事業運営面では、公益目的事業推進のために、首都圏南、首都圏北、北関東、東海、近畿、中国の主要6地区において、組織・普及・研修・事務局体制のさらなる充実を図り、未来に向けたビジョン作りを本格的に推進してきた。

中でも、事業推進の原動力となる「全国代表者会議」は、本部と6地区の代表者によって具体的事項を協議・決定し、その内容が東・西の「全国指導者会議」に報告され、地区の運営に活かされている。

東・西の「主査研修」「主査候補研修」で育成された若手リーダーを中心に積極的な普及活動が展開され、新しい地域の開拓も着実に進んでいる。

過去36年間に及ぶ実績を基に、将来に向けての組織体制の確立と学習・研修のプログラム開発やシステム化を図り、公益法人としての活動をさらに推し進めている。

## <事業活動>

### I. 家庭教育の振興

- (1) 各地の教育委員会や幼稚園、小学校PTA等から講演会の講師の要請を受け、9回派遣し、延べ878人が受講した。
- (2) 各地の教育委員会より204回の後援や学校等の協力を得て、若いお母さんを対象に「家庭教育講座」を開催して好評を得た。また、「子育てセミナー」ではアットホームな雰囲気、受講者の子育ての悩みやトラブルの解決に向けて、適切なアドバイスをした。

これらの講座開催は1,574回に及び、延べ29,094人が受講した。

- (3) 協会認定の 22 人のカウンセラーによるカウンセリングは、各地区で定期的実施され、多くの会員の悩みや問題の解決に役立っている。
- (4) 成人男性対象の組織『スコール・マスターズ』は、グループディスカッション方式に一新した「人生学コース」や、「心身開発トレーニングコース」（坐禅・ボイストレーニング・朗読・基礎講座）を開催した。

「地区学習会」を東海・近畿地区で 4 回開催し、全国展開に向けての自主運営を進めている。独自開発した「自己開発ノート」の学習が、平成 26 年度から本格スタートして 8 人が受講し、好評を得ている。
- (5) 熟年女性対象の組織『スコール・グレイセス』は、「グレイセス講座」や「生き活きトレーニング」を各地区で開催して好評を得ると共に、指導者の養成を図っている。首都圏地区のメンバーで組成したコーラスグループ『グレイセス・ヴォーチェ』（28 人）は、10 月 23 日にスコール・グレイセス、プレ 10 周年「夢コンサート」を開催し、460 人の観衆を魅了した。

## II. 研修の実施

- (1) 「早朝研修」は全国 55 か所の会場で毎朝開催し、延べ 207,545 人が出席した。
- (2) 初級・中級・上級者向けのボイストレーニングが、各地区で活発に行われ、延べ 10,560 人が受講した。同トレーニング修了者が受講する「ことだまコース」は、朗読法や話し方を向上させ、指導者養成の研修として定着している。
- (3) お母さんがゲーム感覚で子供と共感体験できる「ふれあいトレーニング」をはじめ、寝たきりや転倒防止を図る「生き活きトレーニング」を開催し、合わせて、指導者を養成している。
- (4) 「家庭教育講座」の講師検定に 3 人が合格した。現在、26 人の講師が全国の家庭教育講座を担当している。
- (5) 「心身開発トレーニング」のトレーナー審査会が 3 回開催され、4 級に 5 人が合格した。また、「ふれあいトレーナー審査会」に 15 人が合格し、全国で 176 人が各地区で活躍している。
- (6) 「リーダー研修」「実践者研修」「コメンテーター研修」等に、合わせて 5,112 人が受講した。
- (7) 実践者研修では新たに「北部実践者研修」を年 4 回開催して、宮城・栃木・茨城・群馬県から延べ 144 人が受講し、若手リーダーの育成を図った。
- (8) 会員向けの『自己発見の旅』学習は 55 人が受講し、延べ 2,340 人となった。

### Ⅲ. 研究プロジェクトの実施

(1) 『子育て応援キット』から学び始めて、『スタート』学習、『ステップ・アップ』学習、さらには『自己発見の旅』学習を受講してレベルアップを図る学習プログラムのシステム化に取り組み、全国展開が平成 27 年 4 月からスタートし、好評を博している。

『スタート』学習の教材を、若いお母さんが学習しやすいように改訂作業を進め、リーダー向けに「参考メッセージ集」を発行して、活用されている。

(2) 一部賛助会員からの要請により、社員教育の一環として講師・トレーナーを派遣し、学習会とボイストレーニング・ふれあいトレーニングを 6 回実施し、延べ 76 人が受講して好評を得た。

### Ⅳ. ボランティア活動の推進、及び他の団体との連携

(1) 4 月 14 日に発生した「熊本地震」の救援金を全国に募り、1,058,777 円を朝日新聞厚生文化事業団に送金した。

(2) 収集ボランティア活動は、創立以来のベルマーク収集の全国累計が 2,200 万点を超えている。親代わりで支援している社会福祉法人「恵の園」が、今年度の集票点数 310,249 点で全国 18 位、群馬県 1 位の成績を収めた。

学校法人「アジア学院」へ未使用はがき 6,200 枚をはじめ、「聖明園」等への援助を行った。

(3) 第 38 回ユニセフ「ハンド・イン・ハンド」に、全国 50 か所で 895 人（子供 361 人）が街頭に立って市民に募金を呼びかけ、1,690,612 円を日本ユニセフ協会に収めた。

(4) 日本キリスト教海外医療協力会に使用済み切手を寄贈し、国際協力も堅実に行われている。

(5) 日本学術会議会員（学術研究団体）の「日本家庭教育学会」の運営に協力し、第 31 回記念大会で 2 人が研究成果を発表した。他の団体との連携による社会的展開も大きく推進された。

### Ⅴ. 普及事業

(1) 月刊『すこ〜れ』（通巻 433 号）を発行し、生涯学習誌として誌面がますます充実している。

(2) 協会公式ホームページは随時データを更新して、魅力的な最新情報を提供している。特に、各地の母親講座の開催情報にアクセスが集中している。入力データを基に講座のチラシが作成できる「スターター・キット」が、広く活用されている。

さらに、会員専用ページに、各地区の活動情報を発信する「コミュニティ広場」のコーナーを開設し、好評を得ている。

- (3) 相模原市の地元紙「相模経済新聞」に、「おとうさんの10ヶ条」を毎月、連載した。
- (4) 女性講師のブックレット「お母さんへのメッセージ」(6巻)は、子育て中のお母さん方に助言の書として広く活用されている。
- (5) 「ボランティア通信」(通巻44号)を年2回12,000部発行し、全国の収集ボランティア協力者に広く読まれている。

<会員動向>

| 会員等区分の名称 | 平成28年3月31日 | 平成29年3月31日 | 前年比  |
|----------|------------|------------|------|
| 一般会員     | 19,914人    | 20,550人    | 103% |
| 特別会員     | 6,778人     | 7,227人     | 106% |
| 賛助会員     | 6社         | 9社         | 150% |

以 上